

# 令和7年度 印西市民アカデミーだより 第11号

## 講座11：起業について学ぶ

10月3日、印西市商工会事務局長を講師に迎え、「起業について学ぶ：印西市商工会の起業支援」をテーマに講演いただきました。また、創作料理よし久の店主による起業体験談もあり、実践的な学びの機会となりました。

「人生100年時代」をどう生きるか。ボランティアや趣味、地域活動、現役として働き続けるなど、多様な選択肢があります。働き続ける方法としては、(1)企業での雇用、(2)独立開業があり、起業も一つの選択肢です。

中小企業・小規模事業者の減少は、高齢化や後継者不足による廃業、地場産業の衰退、価格転嫁の困難などが背景にあります。印西市では事業所数は増加（H28比+177）していますが、小規模事業者は減少（▲101）。大型店や物流・データセンターの進出に対し、地場の事業者が減少傾向です。人口増に伴い創業相談は増加しており、千葉ニュータウン地区では自宅兼事務所での創業（ネット販売、ITサービス、設計・製造企画など）が増えています。



商工会：起業について

印西市商工会は、業種を問わず地域事業者が会員となり、事業や地域の発展を目指す経済団体です。昭和35年設立以来、経営改善普及事業、市街地活性化、特産品開発（夢いんざい、味噌ピーから揚げ）、手焼きせんべい販売促進、いんざい創業塾の開設などを通じて、地域事業者の支援に取り組んでいます。現在は本埜産米を使った日本酒プロジェクトも進行中（今年度末販売予定）。

創作料理よし久の店主は、62歳からの起業を通じて「人生後半を豊かに生きるための学び直し」を実践。教員としての経験を活かし、「自分と周囲を大切に作る経営」を目指しています。起業は困難も多く、新しい店ができて同じ数だけ閉店する現実があります。経営戦略としては、広報（看板・のぼり・ポイントカード）、価格設定（売り手と買い手の納得）、食の安全・安心（HACCPの実践）、収支の記録と見通しの把握などを重視し、日々努力を重ねています。



セカンドステージ起業

商工会と起業家の講話を通じて、受講生が自らの行動を考えるきっかけとなることを期待しています。